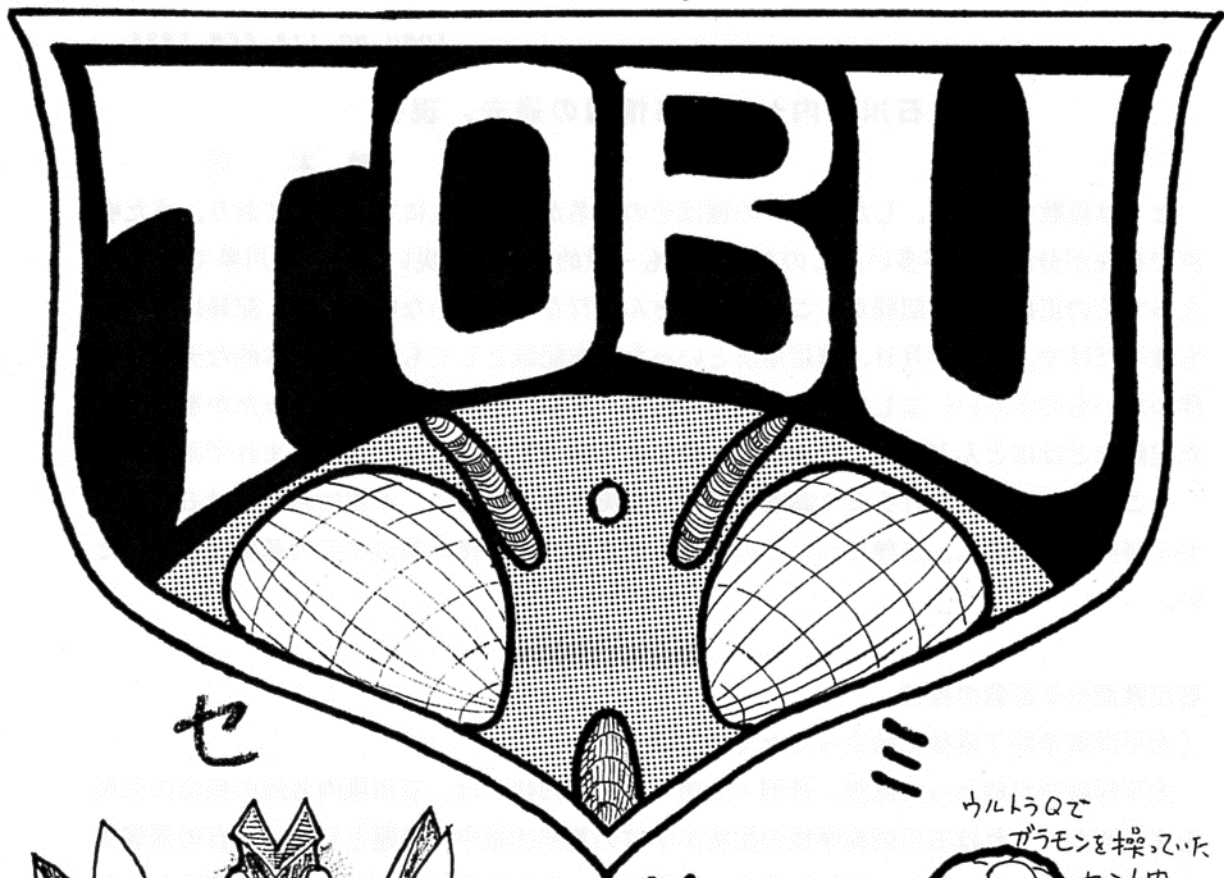




セ

三



最初のバルタンの
着ぐるみの頭部は
右左のセミ人間に
改造したモノ



最新作
ウルトラマンパワードの
パワードバルタンの
アメリカ人
ペンパトリックの
造形



ウルトラQで
ガウモンを操っていた
セミ人間
(チルノニア星人)



バルタン星人
(2代・3代)



パワードバルタンの
後姿
昆虫のイメージが強い



帰ってきた
ウルトラマンの
バルタン星人の
一番スタイルが
ダサイ

たおが怪獣だけにと
造形する人向の感性が
でてはうとるかオモシロイ

バルタン星人がセミを認識したものがは、判らぬか
顔の造形は半支羽目のイメージだと思えるが、どうでしょう

石川県内セミ分布情報の過去、現在

徳 本 洋

セミは種数も少なく、しかも多くの種はその種名が一般の人にも知られており、また鳴声で存在が分かる種が多い。このあまりにも一般的な存在が災いして、石川県では、かえってその正確な分布記録が、これまでほとんど行なわれていない。また、記録はあっても種名だけで、確認年月日、確認場所といった分布記録としてもっとも基本的なデータを伴わないものが多い。まして、生息確認が採集、目撃、鳴声のいずれによったかを明記した記録などはほとんどなく、幼虫の脱皮殻による調査記録などもきわめてまれである。

そこで、石川県におけるセミ調査を今後、充実させるために、本報においては石川県のセミ研究史を概観し、各種についての知見をまとめて、今後の調査研究の基礎資料としたい。

石川県産セミ目録の推移

[太平洋戦争終了直後に始まったセミの記録]

太平洋戦争が終わった直後、丹羽・太田・井下（1949）は、石川県内各地の昆虫の分布をまとめた。これは石川師範学校の生徒が学校の夏期休業中の課題として、各自の帰省先での昆虫採集を課せられ、学校に集まった標本を、生物班員であったこの三氏がまとめたものである。そしてこの中にはセミ8種についても市町村単位での分布が記されている。載っているのはアブラゼミ、ニイニイゼミ、ハルゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、エゾゼミ、チッチゼミである。ただエゾゼミとチッチゼミは産地が記してない。太田氏の教示によると、この2種については、太田氏自身がエゾゼミは能登の鉢伏山と金沢の医王山で鳴声を聞いたこと、また、チッチゼミは小松市の大杉谷で鳴声を聞いたことに基づいて記録したものだという。

石川むしの会が結成されたのは1955年であるが、その翌年に同会による第一回昆虫標本展が、当時の金沢大学理学部会議室（現在の石川県文学館）で行なわれた。この時の出品標本を中心として太田（1957）が、「石川県産セミについて」という報文を記し、県内の分布帯概念図を付している。これが石川県のセミ単独についてまとめられた最初の報文である。

この報文の中で太田はアブラゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、ハルゼミの6種を県内普通種であるとし、珍しい種としてはエゾゼミ、コエゾゼミ、チッチゼミをあげて、計9種のセミが石川県産であるとした。

この展覧会ではエゾゼミは七尾付近で採集されたものが出品されていたし、太田自身も

表紙デザイン：小 幡 英 典

かつて能登宝立山の頂上付近で1雄を採集したことがあると記している。しかしいずれもそれ以上のデータは記されていない。また、コエゾゼミを富樫が白山麓で、また太田自身が六万山で1雄を採集したと記しているが、これについても、それ以外のデータは記していない。さらにチッチゼミを富樫が白峰村で、また太田が尾口村で採ったと簡単に記している。

〔地方史に載ったセミの記録〕

1960年ごろから石川県内で地方史出版ブームが始まった。そして、これらの中に自然編が取り込まれるものが多くなり、その中の昆虫の項にセミもしばしば記録されている。

たとえば七尾市史では松枝(1970)は8種を記録しており、エゾゼミが石動山に多いと記している。チッチゼミも記しているがデータはない。輪島市史には岩田(1973)がエゾゼミを含む9種を記している。この中にはエゾハルゼミ・コエゾゼミが含まれており、この2種は石川県内では、現在のところ白山のブナ帯でしか生息が知られておらず、輪島市域での生息には疑問がある。志賀町史では松枝(1974)、同じく富来町史でも松枝(1974)がそれぞれエゾゼミ・チッチゼミを含む8種を記録している。高松町史には丹羽(1974)がセミ4種を記録している。珠洲市史では松枝(1976)がアカエゾゼミ・チッチゼミを含む8種を記録している。アカエゾは宝立山頂で確認、チッチは同じく宝立山で鳴声を聞いたと記している。エゾゼミは記していない。なお松枝(1994、私信)によれば、このアカエゾゼミの記録は1975年7月19日、珠洲市白滝であるという。能都町史では松枝(1980)はセミ6種を記しているがエゾゼミ・チッチゼミはない。辰口町史では大串(1983)がチッチゼミを含む6種を記録している。

これらの地方史書では、いずれもこれらのセミの和名が羅列してあるだけで、生息確認年月日や詳しい地名を記したものはなく、前記の石動山、宝立山がわずかに場所を特定できる情報である。ただ調査は一般に出版前に1～2年の調査期間をかけていることが多く、まれに3年のものがあつたようで、多くはその期間内の調査結果であろうという推測はできる。

徳本(1962)は、1961年に行なわれた北国新聞社主催の白山総合調査に参加し、そのとき釈迦林道や六万山でエゾハルゼミの鳴声を確認した。そして登山口あたりまではミンミンゼミ、アブラゼミ、ヒグラシが分布していると報じた。また、そこから上のブナ帯にはコエゾゼミが多いとも記している。コエゾゼミについては富樫(1959)が、その前にすでに「白山」として記録している。

武藤(1974)は金沢市医王山にエゾゼミが相当多く生息しており、多数の個体を採集して調べたがアカエゾゼミは混じっていなかったと記している。

石川県環境部は1978年に、石川県産昆虫を広くまとめた現在までのところ唯一の目録的文献を発行したが、その中で太田(1978)は石川県産のセミを11種とした。太田(1957)の最初の石川県産リストに比べると、エゾハルゼミとヒメハルゼミが加わっているが、アカエ

ゾゼミは含まれていない。

ヒメハルゼミが加わったのは、松尾(1966、1974)が、白山の岩間噴泉塔に降りるブナ林の中でこのセミの大合唱を聞き、また目撃したと報じたことによる。徳本(1981)は1981年、松尾がこのセミに遭遇したと思われる時期と同じ時期に現地を調査し、その結果を詳しく報じた。そして新潟県能生のヒメハルゼミ群生地での状況も実地に調べた上で、松尾のヒメハルゼミはエゾハルゼミの誤認であろうと推定した。

また、これと同時に徳本(1981)は石川県内でのヒメハルゼミの存否を調べるため、1981年に加賀、能登に点在する生息候補地と思われる照葉樹林など4か所を精査したが、いずれからも発見できなかった。そして県内各調査対象林で確認されたセミの種などの詳細を記録すると共に、松尾がヒメハルゼミと誤認するに至った経緯を詳しく論考した。

福井大学の佐々治教授(私信)によると、福井県でもエゾハルゼミがヒメハルゼミと誤認されていたケースが多いとのことである。

アカエゾゼミは、前記のように松枝(1976)が能登から報じたのが石川県での最初であるが、その詳細は不明である。その後、このセミを報じたのは武藤(1980)で、白山麓の三つ谷で採集した個体について色彩を含めて詳細に記録した。この標本は後に日本セミの会会長の林正美氏によっても調べられたと聞いている。

こうして石川県産セミはヒメハルゼミが除かれて、アカエゾゼミが加わり、11種となって現在に至っている。

舢倉島のセミ

能登半島沖50kmの会場に浮かぶ小孤島舢倉島にセミがいるか、いないかはっきりしなかった。それは熊野(1961)が、この島の寺の和尚がセミの鳴声を聞いたことがあるといていた、と記したことによる。しかし、その後も、夏期渡島した生物関係者が少なくなかったにもかかわらず、セミの存在を報じたものはまったくなかった。ところが、徳本(1984)は1984年夏に渡島したときに初めてツクツクホウシが少数いるのを確認した。それまでも徳本は何回か夏期に島を訪れていたが、まったくセミの鳴声を聞いたことがなかった。

堀(1990)は1989年8月に舢倉島を訪れ、数百ひきが群がり鳴いているのに驚いたと記している。そして6年前に訪れたときは数匹が鳴いていただけであったという。6年前といえば、私がツクツクホウシを確認した前年になる。この1989年のツクツクボウシの確認以後、この島のセミの情報を知らないが、現在はどうなっているのだろうか。

県内のエゾゼミとアカエゾゼミ

石川県内では山地でエゾゼミの分布が記録されている地点がいくつかあることは前記した。特に能登ではかなり多いようで、夏期、能登を訪れると、各地でエゾゼミの鳴声を聞

く。しかし、エゾゼミとアカエゾゼミの鳴声を聞き分けることは困難なので、採集か、正確な目撃をしない限り、鳴声だけではそのいずれかを識別できない。林(1989)の全国のエゾゼミ属の分布調査でも、エゾゼミ・アカエゾゼミ・コエゾゼミについては、鳴き声による記録は採用しない、と断っている。

コエゾゼミは白山では、登山時に目撃される機会も割合多く、ほかのセミとの区別はそれほど困難ではない。しかしエゾゼミとアカエゾゼミは、いま述べたような理由で、今後の県内分布調査では、必ず種を確認した記録が望まれる。ただ、武藤(1974)が医王山で調査したときのように、採集した多数の個体がすべてエゾゼミであったということ、また松井正人氏の教示によると、氏が宝達山やその他の能登で観察した例はすべてエゾゼミであったということからすると、アカエゾは少ないのかも知れない。今後の確認が必要である。

エゾゼミ、アカエゾゼミの区別はさて置いても、能登半島ではそのいずれかの鳴声の聞ける場所が多いことは、先に記したが、その位置の記録の集積も今後必要である。

それに比べて加賀地方ではこのセミの鳴声をあまり聞かないようであるが、果たしてそうなのか、どうかも今後の課題である。なお、私と武藤氏は1993年9月15日に、鳥越村渡津あたりを大日ダム方向に自動車で通過中に、左手の山林の方から、1個体だけの鳴声であったが、エゾゼミ類の鳴声をするのを聞いた。手取川以西で、エゾゼミ類の鳴声を耳にしたのは、私はこれが初めてであった。

県内のミンミンゼミの記録

林(1989)は全国のミンミンゼミの分布記録の文献を県別に載せているが、石川県は皆無となっており、従って分布地点のプロットも石川県はまったく空白である。もちろん全国的分布図には石川県も当然分布していることになっているが、要するに県外の人の目に触れるような文献がないということである。私を含めて、県内の昆虫関係者の怠慢ともいえるよう。

県内のクマゼミ

徳本(1985)は、金沢市街地の中心に近い寺町からクマゼミが鳴いているのを確認し、これを偶産として報じた。そしてこの年、市内の他のいくつかの地点でもこのセミの鳴声を聞いたという不確実情報があったことも付記した。

入場登氏の教示によれば、1993年夏に金沢市街地の数地点でクマゼミの鳴声を聞いたという。また、小幡英典氏の教示によれば、同年夏、金沢市米泉町方面でも何回か、クマゼミの鳴声を聞いたという。このように複数の人が、1993年夏に、金沢市街地の各所でこのセミの鳴声を聞いていることは、重要な事実である。また、江口元章氏の教示によれば、1994年夏、金沢市泉野出町で続けてクマゼミの鳴声を聞いた日があるという。

福井県では、県北部はもともとこのセミがいない地域とされていたが、近年はしばしば、各地でその鳴声を確認したことが報告されている。しかしまだ定着しているとは認められていないようである。このようなことから北陸地方でも、このセミの分布が北進の傾向を示しているのかも知れず、今後の動向が注目される。その意味で、このセミの分布記録は注意して、こまめに残していく必要がある。それで、日時、場所、状況を付した断片的なものでよいから、多くの人がある記録を同好会会誌などに寄稿して残すよう努めてほしい。

《 文 献 》

- 林 正美, 1989. 日本産セミの分布調査報告(1) アブラゼミ属, エゾゼミ属.
CICADA, 8(1) : 1-27.
- , 1990. 日本産セミの分布調査報告(2) ハルゼミ属, ヒメハルゼミ属,
ヒグラシ属, タイワンヒグラシ属. CICADA, 9(1/2/3) : 1-45.
- , 1991. 日本産セミの分布調査報告(3) ニイニイゼミ属, ケナガニイニイゼミ属,
クマゼミ属. CICADA, 10(1/2) : 1-29.
- , 1992. 日本産セミの分布調査報告(4) ツクツクボウシ属, ツマグロゼミ属,
クサゼミ属, チッチゼミ属, クロイワゼミ属. CICADA, 11(1/2) : 1-29.
- 堀 紳二, 1990. 日本海の島を訪ねて. CICADA, 9(4) : 57-60.
- 岩田秀男, 1973. 動物. 輪島市史資料編, 5 : 315-545. 石川県輪島市.
- 金沢市保健公害部, 1990. みんなで調べた金沢の自然. pp. 82.
- 環境 庁, 1980. 日本の重要な昆虫類・北陸版. 動物分布調査報告書・石川県. pp. 73.
- 熊野正雄, 1961. 生きものの記録—島々の動物列伝. in 舳倉島・七つ島
(pp. 151. 金沢大学・北国新聞社自然科学調査団著)
p. 73-96. 北国新聞社. 金沢.
- 松枝 章, 1970. 昆虫類. 七尾市史資料編, 1 : 188-209. 石川県七尾市.
- , 1974. 昆虫類. 富来町史資料編 : 138-154. 石川県富来町.
- , 1974. 昆虫類. 志賀町史資料編, 1 : 257-282. 石川県志賀町.
- , 1976. 昆虫類. 珠洲市史, 1 : 349-393. 石川県珠洲市.
- , 1980. 昆虫類. 能都町史, 1 : 318-365. 石川県能都町.
- 松井正人, 1981. 新岩間温泉付近の記録. とっくりばち, (46) : 10-11.
- 松尾秀邦, 1966. 加賀の温泉その1. p. 10. in 里見信生編. 北陸の自然. pp. 208.
六月社. 大阪市.
- , 1974. 白山岩間温泉のヒメハルゼミ. はくさん, 2(3) : 1-2.
- 丹羽修平, 1974. 昆虫相. 高松町 : 76-90. 石川県高松町.
- 丹羽修平・太田芳美・井下実, 1949. 石川県の昆虫相 1. pp. 53. 石川師範学校生物部.
- 大串龍一, 1983. 辰口町史, 1 : 381-408. 石川県辰口町.

- , 1991. 金沢大学丸ノ内キャンパスにおける動物の生態調査報告.
pp. 63. 著者自刊.
- 太田芳美, 1957. 石川県産セミについて. とっくりばち, (2) : 4-6.
- , 1978. セミ科. 石川県の自然環境第4分冊 : 32. 石川県環境部.
- 桜井正喜, 1962. 医王山の昆虫. pp. 21. 著者自刊.
- 武藤 明, 1974. 昆虫数種の習性について. とっくりばち, (26/27) : 8-9.
- , 1978. 能登半島の昆虫資料. とっくりばち, (41) : 8-9.
- , 1980. 白山麓採集行. とっくりばち, (45) : 6-7.
- , 1980. アカエゾゼミ石川県にも生息. 昆虫と自然, 15(14) : 8.
- , 1984. ミンミンゼミの異常行動. 昆虫と自然, 19(14) : 31.
- , 1990. 昆虫数種の生態と分布資料. とっくりばち, (57) : 2-4.
- , 1993. 1993年前半の昆虫資料. とっくりばち, (61) : 10-12.
- 富樫一次, 1959. 加賀白山及び手取水系の生物相 その1. pp. 48. 著者自刊.
- 徳本 洋, 1981. ヒメハルゼミは石川県に産するか. とっくりばち, (46) : 6-9.
- , 1984. 舩倉島のツクツクホウシ. 昆虫と自然, 19(14) : 12.
- , 1985. 金沢市でのクマゼミの偶産記録. 昆虫と自然, 20(14) : 14.
- ・ほか, 1962. 白山. pp. 362. 北国新聞社. 金沢.
- ・高羽正治, 1982. 夕日寺健民自然園環境調査報告書. 昆虫 : 59-81.
石川県環境部.

《とくもと ひろし 〒921 金沢市泉野出町1-2-6》

金沢市でクマゼミの声を聞く

澤 田 博

金沢市内でクマゼミの声を聞いたので、記録にとどめておきたい。当地で発生しているものか、人為的に持ち込まれたものかは不明である。

1994年8月1日 金沢市泉野第四児童公園 1♂(声) 澤田 博

多数のアブラゼミの中でただ1匹鳴いていたもので、姿を懸命に探したがみつからなかった。

1994年8月12日 金沢市国立金沢病院または兼六園 1♂(声) 澤田 博

車で通過したため、どちらから声が聞こえてくるのか確認できなかった。

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

石川県におけるクマゼミの記録

高田 兼太

石川県において、まだ採集されていないクマゼミの鳴き声を聞いているので、報告しておく。

1994年8月13日 金沢市若松 1♂（鳴き声） 高田兼太

鳴き声が聞こえてきた方角およびその大きさから、若松八幡神社付近で鳴いていたものと思われる。

末筆ながら、貴重なご意見をいただいた松井正人氏にお礼申し上げる。

《たかだ けんた 〒920-11 金沢市若松町警備野3番地 山本和男方》

クマゼミの声かな？

宮本 大

1993年8月12日の朝、志賀町の能登ロイヤルホテルで、クマゼミの声を聞きました。アブラゼミやミンミンゼミの声で良く聞こえなかったので、かん違いかもしれないけれど、たぶんクマゼミの声です。

声のするホテルの庭へすぐに行こうとしたけれど、セミは集めていなかったの、探しに行きませんでした。

声を聞いたのは、ぼくとお父さんです。

1993年8月12日 志賀町志賀の郷 鳴き声 宮本 大

《みやもと だい 〒920 金沢市春日町3-3-1007》

季節はずれのアブラゼミ

羽咋市柴垣町の国立能登青年の家の事務室で十二日、季節はずれのアブラゼミ一匹が蛍光灯に止まっているのが見つかった。

前夜まではいなかっただけに、見つけた職員はびっくり。発見した時にはすでに死んでいたが、まだ羽化したばかりらしく、羽の半分は白かった。

（11月13日北国新聞日刊「北窓」欄より一部転写）

石川県内でのクマゼミの記録

江 口 元 章

クマゼミは、東京以西の平地に普通に見られるセミである。北陸地方では福井では多くの記録があるが（福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会, 1985）、石川県・富山県では高岡と富山において古い記録があるだけのようである（富山県昆虫研究会, 1988）。私はこれまでに、主に金沢市内でクマゼミの鳴き声を聞いたことがあるので、記録にとどめておきたい。

石川県で初めてクマゼミの鳴き声を聞いたのは、1986年8月（日時は不明であるが年月は間違いなし）に金沢市泉野出町2丁目八幡神社においてである。境内の大きなケヤキの木で、1個体だけがしきりに鳴いていた。2回目は1990年8月13日に、入院していた金沢市円光寺3丁目の病院で鳴き声を聞いた。この時も1個体だけであった。そして昨年には、金沢市泉野出町3丁目の自宅近くのキンモクセイの木で1994年8月1日、2日の両日鳴き声を聞いた。いずれの日も、しばらく鳴いてすぐにどこかへ飛び去った。また、8月2日には金沢市泉野町6丁目の公園に、子供と朝のラジオ体操に出かけたとき、公園のサクラの木でしきりに鳴いているのを聞いた。これは自宅付近で聞いたのと同じ個体かもしれない。さらに8月13日には、能美郡川北町与九郎島粟島白山神社境内の大きなケヤキの木にて鳴き声を聞いた。この時も鳴いているのは1匹だけであった。

このように、いずれの場合にも1個体のみが鳴いている状態で発見されており、この地で繁殖して子孫を残しているのかどうかは疑問が残る。

《クマゼミの記録》

1986年8月	金沢市泉野出	1♂（声）	江口元章
1990年8月13日	金沢市円光寺	1♂（声）	江口元章
1994年8月1日	金沢市泉野出	1♂（声）	江口元章
1994年8月2日	金沢市泉野出	1♂（声）	江口元章
1994年8月2日	金沢市泉野	1♂（声）	江口元章
1994年8月13日	能美郡川北町与九郎島	1♂（声）	江口元章

《参考文献》

- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(編), 1985. 福井県昆虫目録, pp. 404. 福井県.
富山県昆虫研究会(編), 1988. 富山県の昆虫類, pp. 216. 富山県.

《えぐち もとあき 〒920 金沢市泉野出町3-1-16》

1994年におけるセミの記録

松井 正人

石川県にはセミの記録が少ないので、1994年は声に聞き耳を立てていた。ミンミンゼミやツクツクボウシは正にその名の通りの鳴き声だったが、ハルゼミやヒメハルゼミは、図鑑に書かれているような鳴き声には聞こえなかった。例えばエゾハルゼミの「ミョーキ、ミョーキ、ケケケ・・・」は全くそのようには聞こえず、カゼをひいたヒグラシのような声だった。そのヒグラシの鳴き声にしても、決して「カナカナカナ」とは聞こえなかった。

声から種を判別するにあたって、図鑑に書かれている声では聴き分けることができなかった。録音されたもので鳴き声を覚えた。また、エゾゼミとコエゾゼミは聴き分けられないが、過去にその地でエゾゼミを確認していたり、コエゾゼミの分布が考えられない所では、鳴き声だけでエゾゼミとした。記録は総て1994年のもので、総て筆者が確認した。(声)とあるものは声で種を判別したことを示し、(1♂)等とあるものはその個体を確認したことを示している。

ニイニゼミの10月30日の記録について、少し説明を加えたい。午後3時ごろに声を聴き、個体を確認すべく声のする方へ行くと鳴き止んでしまった。15分後に再び鳴きだし近づくと、桜で鳴いているらしいと分かったところで鳴き止んでしまった。15分待ったが鳴きださないの、確認をあきらめた。これだけでは発表を控えたが、11月12日同地においてアブラゼミが見つかったとの新聞報道があり、異常気象の影響と思い発表することにした。

最後に、セミについての情報や鳴き声を覚えるにあたっての録音CD等、種々お世話になった徳本 洋氏に心よりお礼申し上げる。

《ハルゼミ》

5月18日 金沢市釣部(声)

5月18日 金沢市神谷内(声)

《エゾハルゼミ》

5月22日 鶴来町八幡(声)

5月29日 白峰村別山千振尾根(声)

6月11日 尾口村目附谷下流(声)

6月11日 吉野谷村途中谷(声)

《エゾゼミ》

8月 9日 能都町瑞穂大峰神社(声)

9月 3日 鹿島町石動山(声)

9月 3日 羽咋市神子原(声)

7月30日 押水町宝達山(声)

8月 3日 金沢市キゴ山(声)

《ヒグラシ》

7月10日 白峰村大杉谷(声)

7月17日 白峰村白峰(声)

7月23日 押水町宝達山(声)

7月30日 押水町宝達山(2♀)

《ニイニゼミ》

6月25日	押水町東間（声）	10月30日	羽咋市国立青年の家（声）
6月30日	金沢市広坂（声）	7月1日	金沢市兼六園（声）
7月5日	金沢市小橋（声）	7月8日	金沢市大場（声）
7月8日	金沢市卯辰山（声）		

《アブラゼミ》

8月9日	能都町瑞穂大峰神社（声）	8月10日	穴水町甲円山（声）
8月31日	富来町鹿頭（1♂）	7月16日	押水町宝達山（声）
9月30日	金沢市田島（声）	8月3日	金沢市キゴ山（声）
8月13日	鶴来町林業試験場（声）		

《ミンミンゼミ》

8月31日	輪島市高洲山（声）	8月9日	能都町瑞穂大峰神社（声）
8月31日	富来町鹿頭（声）	8月10日	穴水町甲円山（声）
8月20日	押水町宝達山（声）	9月10日	押水町宝達山（声）
7月31日	金沢市見定（声）	10月3日	金沢市柚木（声）
8月13日	鶴来町林業試験場（声）		

《ツクツクボウシ》

8月31日	輪島市高洲山（声）	8月31日	富来町鹿頭（声）
8月9日	能都町瑞穂大峰神社（声）	8月10日	穴水町甲円山（声）
8月31日	富来町高爪山（声）	9月3日	鹿島町石動山（声）
9月3日	鹿島町碁石峰（声）	9月3日	羽咋市神子原（声）
8月27日	押水町宝達山（声）	10月6日	金沢市金沢城址（声）
8月3日	金沢市キゴ山（声）	7月29日	金沢市大場（声）
8月13日	鶴来町林業試験場（声）		

《チッチゼミ》

8月31日	輪島市高洲山（声）	8月31日	富来町高爪山（声）
10月1日	志賀町五里峠（声）	9月3日	鹿島町碁石峰（声）
9月3日	羽咋市神子原（声）	8月27日	押水町宝達山（1♂）
10月3日	金沢市柚木（声）	9月5日	金沢市医王の里（声）
9月21日	金沢市湯涌（声）	9月21日	金沢市島尾（声）
9月21日	金沢市医王山見上峠（声）	9月21日	金沢市芝原（声）
9月21日	金沢市折谷（声）	9月21日	金沢市下谷（声）
9月21日	金沢市甥杉（声）	9月21日	金沢市菅池（声）
8月13日	白峰村大杉谷（3♂）	9月10日	白峰村白峰（声）

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

夏に見られたモズのはやにえ

澤 田 博

初冬にモズが木の枝にトカゲなどを刺す「モズのはやにえ」は、子供向けの理科の本によく出て来るが、私はこれまで実物を見たことはなかった。

1993年7月27日に、職場近くの金沢市泉野町6丁目の児童公園でカタツムリを探していると、モズを見かけた。モズは公園の木から木へと飛びまわり、一向にどこかへ飛び去る様子はなかった。そのうちに、一本のキョウチクトウの枯れ枝にアブラゼミの幼虫が刺してあるのを見つけた。これが「モズのはやにえ」というものか、それにしては時期が早いなど半信半疑でいると、同じ木で更にアブラゼミの幼虫とニイニイゼミの幼虫が、それぞれ別の枯れ枝に刺してあるのを見つけた。アブラゼミの幼虫は食べられたのか、頭の部分がなかった。翌28日にも同公園を訪れ観察したが、「はやにえ」はそのままであり、モズは相変わらず公園にいた。

しかし、8月2日に同公園を訪れた時には、「はやにえ」は一つも残っておらず、モズの姿も見られなかった。調べると、「モズのはやにえ」は、冬だけのものではなく、営巣期等にも見られるということで、夏に見られてもおかしくないようだが、セミの幼虫をその対象にするということ、そして、おそらくは食べてしまった事例として、報告しておくことにする。



ニイニイゼミ



アブラゼミ

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

「偶然」は偶然か

松井 正人

探してもなかなか見付からない虫なのに、名人は事もなげに採ってくる。話を聞けば「偶然、採れた」と言う。しかし、これは果たして本当に「偶然」なのだろうか。

たとえば、2人の虫屋がいる。2人の目の前を小さな虫が飛んだので、たまたま1人が網を振った。網の中からは大珍品が出てきた。この場合確かに偶然かも知れない。けれども網を振った理由が、その虫ではないかと思っていたならば、状況は大きく変わってくる。

一方は長年の経験と知識から、虫が飛んだ瞬間にその虫かも知れないと感じた。他方は何も感じなかった。とすれば、2人の間にそれだけの力量の違いがあった事になる。だから、虫が飛んだのは偶然かも知れないが、採れたのは「偶然」ではなく、虫屋としての実力の差によることになる。

長い虫屋家業では、確かに「偶然」としか言いようのない事もあるだろう。しかし、事前の準備や努力、実力が「偶然」の原因である場合も少なからずあるのではないだろうか。

名人はとにかく「偶然」と言う言葉を使って謙遜するが、それを真に受けてはならない。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

1994年収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金 額(円)	項 目	金 額(円)
1994年度会費	84,000	会 誌 作 成 費	75,668
当該年度以前会費	6,000	例 会 費	12,000
会 誌 売 上 金	132,770	助 成 費	0
郵 送 負 担 金	11,000	郵 送 費	34,379
寄 付 金	0	消 耗 品 費	6,150
前年度繰越し金	26,422	次年度繰越し金	131,995
計	260,192	計	260,192

備 考

十 年 会 費 2,000円

十 郵送負担金 500円

中国の甲虫は漬物の香り

井沢氏、中国の昆虫商から大量に虫を仕入れているが、匂いがきついらしい。漬物のような香りが染み込んでいるので、漬物のカメで保存しているのかも知れない。

湯あがりに聴く四季の歌声

熱い湯からあがり、一息ついていっていると、何処からともなくコオロギの声。この前はセミだったと思いながら、その音色に聴き入る。温泉に虫の声、心身共に解きほぐされていくようだ。湯涌温泉「湯楽」は熱い湯と虫の声が自慢です。

蝶屋以外は肩身が狭い？

「蝶談会のメンバーです」と言えば、人は蝶屋だと思ひ込み、甲虫屋だと言うと「なぜ蝶屋のグループにいるんですか」となる。結成当時はほとんど蝶屋だったが、今はほとんど元蝶屋。仲間内ではそれでも通るが、外から見ると変な感じがするらしい。

飼育は貸鉢で手間いらず

飼育シーズンがやって来る。かつては卵や幼虫のストックが多過ぎて、飼育地獄に陥った事もあるが、最近はその様な事もない。しかし、段々なまくらになつてきて、わずかの食草に事欠いたりしている昨今である。こんなときサクラトネリコ、ブナ、エノキ等の貸鉢でもあれば、手間も係らず、毎日幼虫の顔も見られ、すこぶる快適なのだ。

ゲンゴロウツアーは大成功

元旦から一週間、井村一家、野中親子、中西氏ら一行九人は、沖縄旅行を楽しんだ。現地で観光チームから離脱したゲンゴロウチーム四人は行く先々多大なる成果を上げるのだった。

カミキリ屋に成りきれない

カミキリ屋

AとBが虫採りに行った。AとBの狙いは違っていたが、互いに相手の獲物にも興

味があつた。Aが「採った」と叫ぶとBは気が散つて仕方がない。それどころかAの獲物に手を出してしまうBであつた。そのあとでBは、自分の獲物が採れなかったとくやむのだった。

オジサン達は言うけれど

金魚すくい、器用にチビとかケシとかいったゲンゴロウをすくつたり、肉眼でその模様を見分ける充の眼をオジサン達はすごいと言う。しかし、採った虫をいちいちメガネを外して見るI氏、小さな虫は端から見えないNA氏、見えると思ひ込んでいるNO氏、これがオジサン達である。充の眼は確かに良いかも知れないが、オジサン達の眼は確実に年老いているのです。

釈迦林道特集を出そう

県内採集地のメツカともいえる白山釈迦林道の特集号を計画中です。釈迦林道で楽しい採集ができるよう、どんどん投稿して下さい。

例会の記録

十二月九日(金) 八時から

城南管工二階にて開催。例会日、例会のあり方、「石川むしの会」との合併、情報の速報性に付いて熱く話し合った。

例会については、週休二日になり金曜の夜が忙しくなつた事、虫繁期にはホットな情報交換をしたいとの要望から、偶数月と五月と七月の、第一木曜に開くことになった。また、誰かが毎回テーマを持つて話することも決まつた。この指名権は会長にあり、前回の例会時に指名する。

合併については、数人から話が出たが、事を急がず長い目で対処することになった。

情報の速報性については、更にホットな情報を連絡しあいたい、高田君が不定期情報紙を作るようになった。

参加は井村、中西、上田、指田、松井、高田、山岸、下田、生田、細沼、野中、吉田の十二人。野中、吉田の二氏はTEL参加。

会員の動き・しゃぼの動き

展翹人のささやかな楽しみ
井沢氏の展翹をいっきに引き受けている嵯峨井氏、ツマベニにたいそう興味があるらしい。島々からなるインドネシアのツマベニは島ごとに顔が違い、新しい島のは開くのが楽しみとか。最近各地のツマベニがほとんどそろい、ウオレスラインとかウオレスアとかいった、難しい話に首を突込み始めた。

松井氏、交尾器検鏡に凝る
何がおもしろいのか、はたまたやるのが無くなったのか、最近交尾器に凝っている松井氏である。部屋にこもり、一人標本の尻尾を切りながら、「雑種」とか「変種」とかボソボソつぶやいている姿は薄気味悪い。

ツルハシがついで医王山
一日オサ屋に変身した高田君、ツルハシをかついで医王山へ。崖を探していると、銃を持ったオジサンがウロウロしていて不安になり、獲物なしで帰ってきた。

指田氏、またまたラオスへ
再び若原氏の招きを受けた指田氏、年末のあわただしさを避け、二十二日に日本を後にした。八月のラオス行に思いが残ったのか、今回は慣れない品物を準備して出発した。

雪が降っては、総てがパ
季節外れのツマグロヒョウモンを飼っている松井氏、庭の食草が底を突いても、スミレは何処にでもあると高をくくっていた。今年は暖冬で難

なく蛹になると思いきや、コロコロ太った終齢になった頃、ドツカリと雪が降った。あわてた松井氏は、竹ぼうきで辺りを掃きまわすが、スミレはなかなか顔を出さない。

カミキリ屋はいたって元気
井村、江崎、高田のカミキリトリオ、休日ともなると連れだって採集に出かけている。寝る暇も無いほど忙しい会長ではあるが、虫を採る暇はあるのでしょう。この日も倉ヶ岳から加賀市を走り回り、ベーツヤサ等を探る。

ゴム長靴は最強の履物か？
湿った雪と融雪装置の水がシャーベットの様に道を埋めつくし、こんな所はゴム長がないと歩けない。ゴム長は水陸両用で、とまどっているブーツを尻目にスイスイと進んでいく。採集地で突然、湿地や池にぶつかることは良くあるが、こんなときもちゅうちよすること無く入っていける。ゴム長は最強の履物だ。

翔

NO. 112

1995年2月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

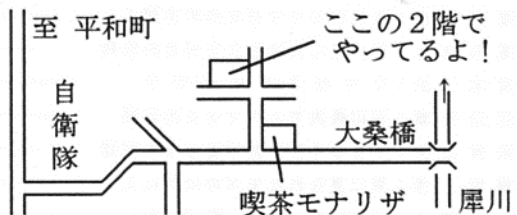
〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



徳 本 洋	：石川県内セミ分布情報の過去、現在	 1
澤 田 博	：金沢市でクマゼミの声を聞く	 6
高 田 兼 太	：石川県におけるクマゼミの記録	 7
宮 本 大	：クマゼミの声かな？	 7
江 口 元 章	：石川県内でのクマゼミの記録	 8
松 井 正 人	：1994年におけるセミの記録	 9
澤 田 博	：夏に見られたモズのはやにえ	 11
松 井 正 人	：「偶然」は偶然か	 12
編 集 部	：全員の動き・しゃべの動き	 14